



アグリビジネス学科同窓新聞

-発行-

秋田県南秋田郡大潟村字南2-2
秋田県立大学生物資源科学部
アグリビジネス学科
TEL 0185-45-2026(代)

印刷: 株式会社 印刷
TEL 018-875-4005

第6号は、前号に引き続き特別紙面としました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続いており、同窓生の皆さんも、大変なことと存じますが、この難局を無事乗り切られますようお願いしております。

アグリビジネス学科における 大潟キャンパス将来構想の展開

アグリビジネス学科長 増本 隆夫



アグリビジネス学科同窓生の皆様、お元気でご活躍のことと拝察いたします。2021年4月に前任の鶴川洋樹先生から学科長を引き継いだ増本隆夫です。2021年度も、昨年度に引き続き新型コロナウイルス対応に明け暮れました。授業は幸いなことに対面で実施されてきました。が、教員と学生は共に、外

国出張はいわずもがな、県外への出張・移動が制限され、研究推進に大きな障害となりました。ワクチン接種によりコロナも一段落したと安心していただけるところ、新たなオミクロン株の拡大との報道に恐れられている昨今です。

2021年3月の卒業生(12期生)を加えて、学科から約500名弱の同窓生を世に送り出したことになりました。同窓生の皆様が多様な分野で活躍され、高い評判を獲得され我々も誇らしい限りです。近年、地方公務員や農水省・国交省の国家公務員としての就職も増えてきています。多くの人事担当者から県大出身者は次々採用したいとの嬉しい要望を戴けるのも、ひとえに皆様のご活躍のおかげです。一方、直近2年間は各4名が大学院に進学し、2021年度には大学院博士後期課程に秋田県

職員(の社会人入学(研修派遣制度でD1在籍)が実現し、3年後の博士号取得が楽しみです。次に、アグリビジネス学科をめぐる最近の動向としては、「大潟キャンパス将来構想」の検討がすすんでいます。現行の学科(アグリイノベーション教育研究センター(AIC))の一部を含む)で行っているプロジェクト教育や個別教員の研究をさらに強化すべく、社会人との交流による学生への刺激、分野横断的な研究と総合化、組織的な対応による研究成果の実用化と地域貢献を進めようとしています。そこでは、社会人等の地域人材教育、分野横断的な地域支援研究、アイデア発見としての地域交流と県立大のブランド化に寄与する情報発信等を充実させようとしています。そこでは、一体型組織として、「大潟キャンパス地域農学オフィ

各プロジェクトの近況

先進作物生産技術開発プロジェクト (旧大規模農業経営プロジェクト)

越冬のために日本にやって来るハクチョウやガンの仲間などが、ここ数年、私たち作物プロの畑場を選んでくれることが多くなってきました。その数、千羽くらいでしょうか。雑草やコムギの茎葉をついばみます。野鳥のためにコムギを栽培しているのではないのですが。そんな畑で今年度も、ダイズの播種、コムギの追肥実験、ヒマワリの播種、ヘアリーベッチの調査などなど、数々の実習・実験が行われました。卒研検討会はずでに3回行っています。4年生は今、卒業研究の取りまとめの時

期で、大学院生(大依さん)からもアドバイスをもらいながら頑張っています。来週は、総勢23名での地域農業研修があり、湯沢市ではセリ農家を秋田市では肥料メーカーを見学します。先生方(永澤先生、山本先生、西村先生、保田先生、露崎先生、これからの時期、ヒヤヒヤ・ドキドキしながらの雪道通勤となります。卒業生の皆さん、気が向いたらハクチョウのように大潟キャンパスにお立ち寄りください。皆さんが、お元気で活躍されることをお祈りいたします。

今年度はアグリーイノベーション教育研究センターの渡邊が担当します。今年度の畜産プロジェクトは教員4名(横尾准教授、佐藤助教、伊藤助教、渡邊)と、大学院生(修士)2名、4年生6名、3年生6名で活動してきました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で対面での活動が影響を受けましたが、今年度はこれまで無事に、体重測定や飼料作物の収穫などの実習を実施できました。昨年影響を受けた現4年生も、そのうつぶんをはらすかのようプロジェクト卒業研究に全力で励んでいます。

今年度はアグリーイノベーション教育研究センターの渡邊が担当します。今年度の畜産プロジェクトは教員4名(横尾准教授、佐藤助教、伊藤助教、渡邊)と、大学院生(修士)2名、4年生6名、3年生6名で活動してきました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で対面での活動が影響を受けましたが、今年度はこれまで無事に、体重測定や飼料作物の収穫などの実習を実施できました。昨年影響を受けた現4年生も、そのうつぶんをはらすかのようプロジェクト卒業研究に全力で励んでいます。

渡邊 潤 記

先進園芸技術開発プロジェクト (旧園芸作経営プロジェクト)

園芸プロジェクトの今年度のニュースを3つ紹介します。1つ目は、6月に梅林利弘先生が特任助教として着任されたことです。トマトの水分生理や細胞の観察方法などを熱心に指導してくださっています。元々は、樹木の水分生理が専門なので、果樹の分野でも色々アドバイスをいただき、良い刺激となっています。

2つ目は、松風祭で2年ぶりに農作物販売できたことです。今年度は、学内関係者しか参加できなかったため、販売数を予想しにくかったのですが、初出品のシャインマスカットが予想以上の大好評で、約70房

が2時間で完売しました。もっと用意すれば良かったと後悔し切りでした。3つ目は、HPをリニューアルしたこと。『活動記録』でプロジェクト活動の様子をブログ形式で紹介しています。ブログ投稿数レースを行い、3年生チーム、4年生の野菜、花き、果樹チーム、教員チームの5チームに分かれて投稿数を競っています。前期最後のゼミの日に、投稿数が多いチームから順番に景品として好きな味のアイスを選んでいき、とても盛り上がりました。卒業生の皆さんもぜひ見に来てください。

現在基盤プロには大学院博士課程1名、修士2名、4年生8名、3年生5名が所属、唯一教員3名のプロジェクトですが活気に満ちています。今年度4月に迎

近藤 正 記

次世代農業基盤創成プロジェクト (旧生産環境プロジェクト)

生産環境から次世代農業基盤創成プロジェクトへと改名し5年、略称の基盤プロもだいぶ馴染んできました。SDGsが共通認識となる中、農地基盤の公益機能発揮や共生・持続を扱ってきた基盤分野の重要性は益々高まっています。秋田4年目の増本教授は秋田の水やお酒に十分馴染まれ、4月から学科長にご就任。アグリ学科をパワフルに牽引されております。

今春卒業予定の院生1名、4年生8名は全員進路が決定しました。農業1、農林水産省3、国交省1、秋田県庁1、設計コンサルタント3名です。卒研に鋭意挑戦中で頼もしい成長と活躍が期待されます。

えた博士院生は大潟キャンパス初です。増本先生の元で最新流域モデルの研究に精力的に取り組む、郷土を守る科学的根拠を秋田に初めたらす仕事を進めています。秋田県職員でもある博士院生の真剣度の格の違いは基盤プロに本気度と活気の相乗効果を与えています。

今春卒業予定の院生1名、4年生8名は全員進路が決定しました。農業1、農林水産省3、国交省1、秋田県庁1、設計コンサルタント3名です。卒研に鋭意挑戦中で頼もしい成長と活躍が期待されます。

近藤 正 記

*各プロジェクトの近況報告は2面に続きます。

北本 尚子 記

アグリイノベーション教育研究センター特集

ーアグリビジネス学科の関わりを中心にー

前号で西村フィールド教育研究センター長から紹介がありましたように、令和3年4月にフィールド教育研究センターをベースにした新たな農工連携の拠点として、アグリイノベーション教育研究センター(略称AIC)がスタートしました。今回は、アグリビジネス学科の二人の先生にAICへの関わりを中心に紹介してもらいました。

スマート農業部門

分野融合研究グループリーダー 山本 聡史

新たな秋田米「サキホコレ」など明るいニュースがあった一方、低い米価が農業経営を直撃し、先行きに不安が残る1年となりました。コメだけに頼らない複合的な経営が求められています。園芸分野や畜産分野では、労働力の確保がボトルネックとなっています。AICの主要テーマのひとつであるスマート農業は、こうした状況を打開する手段として注目を集めています。本学科にもスマート農業に興味を持つ学生が徐々に増え、現在、4年生の佐々木一樹君が畑用除草ロボットを卒業研究テーマとして、AICの畑ほ場でダイズやソバの自動除草の実験を行いました。この研究は、昨年度に阿久津雄大君が研究したソーラーパネルでエネルギーを自給するロボットをベースにしており、最初に播種作業を自動で行い、その作業軌跡に沿って自律走行しながら作物の損傷を軽減しつつ生育初期の雑草をブラシローラで機械的に除去するというもので、8月に農業食料工学会東北支部会で



口頭発表した内容が「農経しんぼう」に掲載されました。また、同じく4年生の杉本初陽さんは、有機米デザイン(株)、TDK(株)、本学が共同研究を行っている水田除草ロボットを卒業研究のテーマにして、AICの小区画水田で除草効果の評価を行い、その取り組みの一部が10月に秋田魁新報で紹介されました。今後、本学科の学生が、プロジェクト実習などの専門課程や「スマート農業入門」といった全学的に実施している集中講義、卒業研究などを通じてAICの最先端のスマート農業技術に触れ、学んだことを世の中に活かしていく機会がさらに増えると期待されます。

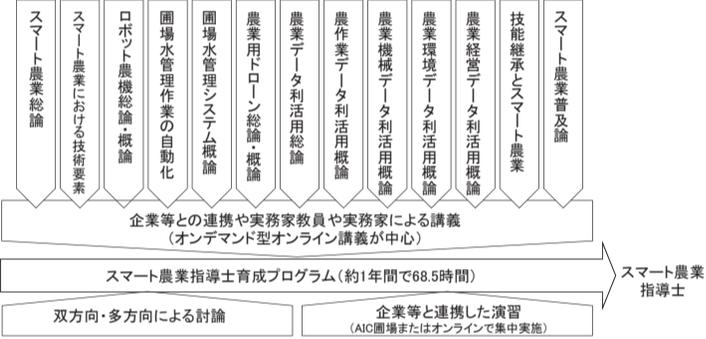
人材育成部門

人材育成グループリーダー 上田 賢悦

IoTやAIなどの先端技術で課題解決を図るスマート農業への期待は大きい一方で、スマート農業そのものやITに精通した農業経営者は限られており、スマート農業の普及・定着に向けたサポート人材の育成やサポート体制の確立が求められています。そこで本学では、スマート農業サポート人材の育成を目的に、令和4年度5月から社会人を対象にしたスマート農業指導士育成プログラムを開講します。本プログラムの修了者には、履修証明書を授与するとともに、本学が独自に認定する「スマート農業指導士」の資格を授与します。

このスマート農業指導士育成プログラムは、オンデマンド型動画配信を中心としたオンライン講義とAIC圃場での演習を組み合わせた68・5時間の教育プログラムを約1年間かけて受講するものです。講師は、アグリビジネス学科とAICの教員に加えて、シス

●プログラム概要



地域ビジネス革新プロジェクト (旧アグリビジネスマネジメントプロジェクト)

地域ビジネス革新プロジェクトでは、津田先生が退職後も1年間教育を担ってくださっていました。それも2020年度いっぱいまで終了となりました。長期間にわたる単身赴任を終え、東京の奥様が待つご自宅に戻りましたが、ラズベリーの生産振興などに今後とも協力いただけることとです。

津田先生と入れ替わる形で、2021年度の4月から末永先生が着任されましたので、現在は酒井先生と林の3人でプロジェクトの教育を担当しています。本来であれば、これに農村社会学の先生を加えた4名の体制なのですが、農村社会学の先生は現在募集手続を進めておりますので、2022年度4月より新しい先生を迎えることができると期待しております。

今年度、当プロジェクトには3年生が7名、4年生が5名所属しています。3年生の活動では、北秋田市の有機栽培農家や、西馬音内盆踊を調査しました。4年生の卒業テーマは、一言では言い表せない複雑なものが多いのでここには書きませんが、年度末にプロジェクトHPに掲載するようにはしておりますので、こちらをご覧ください。

林 美俊 記

政策・経営マネジメントプロジェクト (旧農業政策研究プロジェクト)

本年度の政策・経営マネジメントプロジェクトは、大学院生3名、4年生5名、3年生9名と、教員5名(鶴川教授、上田准教授、高津助教、赤堀助教、岡田)で活動してきました。

新型コロナウイルスの流行が続いていますが、3年生は、輪読ゼミや統計演習のほか、ジュンサイ生産や園芸メガ団地の現地調査を実施することができました。

夏期合宿は、3、4年生を中心に、大学院生も参加し、さらに合宿に便宜を図っていただいた鹿角市役所の皆さんも出席のもと、鹿角市農業の未来をテーマにした農家調査のほか、農業白

書の輪読と卒業論文の報告を行いました。4年生は、コロナ禍の就活となり苦労もありましたが、現在、卒論に急ピッチで取り組んでいるところです。大学院生は、各自、修論に向けた研究活動に邁進し、学会報告や論文投稿を活発に行っています。

今年度は、3、4年生と大学院生も参加したゼミの開催など、学年間の交流促進をはかってきました。3、4年生にも大学院への進学希望者があり、当面、こうした体制が続くと思われれます。次は、OBの皆さんとの連携が課題ですね。

岡田 直樹 記

新任教員紹介

この1年間に大瀧キャンパスに着任された先生の紹介欄です。

末永千絵先生

令和3年4月に津田先生の後任として、地域ビジネス革新プロジェクトに着任しました末永千絵と申します。農業市場が専門で、これまで青果物のインターネット流通について研究を行っていました。現在は米や畜産物等に研究対象を広げるとともに、秋田県や東北地方を対象とした地域研究を進めていきたいと思っております。

お知らせー拡散のお願いー

アグリビジネス学科同窓新聞は第4号からはWeb掲載のみとなっています。同窓の仲間たちに「同窓新聞をWebで閲覧すること」を拡散してください。

アクセス方法「秋田県立大学HP→アグリビジネス学科HP→アグリビジネス学科運営ページ→キャリア・就職→同窓新聞」。

なお、印刷された同窓新聞の配達を希望される方は、kanda@akita-pu.ac.jpまでご連絡ください。

〈次号は令和5年1月頃にWeb公開予定です〉